会議録

会議の名称	西東京市使用料等審議会 令和7年度第1回会議
開催日時	令和7年5月23日(金) 午前10時00分から午前11時10分まで
開催場所	田無庁舎3階 庁議室
出席者	<p>(審議会委員)</p> <p>米田会長、山田委員※、市川委員、玉記委員、吉田委員※</p> <p>(事務局)</p> <p>柴原企画部長、門倉企画政策課長、宮澤企画部主幹(企画政策課)、利根川企画政策課主査、菊地企画政策課主査、白石企画政策課主事 西川ごみ減量推進課長、船場ごみ減量推進課ごみ減量係長、 山岡ごみ減量推進課ごみ減量係主査</p> <p style="text-align: right;">※リモートでの参加</p>
議題	<p>1 一般廃棄物処理手数料(指定収集廃棄物)について(諮問)</p> <p>2 一般廃棄物処理手数料(指定収集廃棄物)について(審議)</p> <p>3 西東京市使用料・手数料等の適正化について(審議)</p> <p>4 その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1-1 一般廃棄物処理手数料(指定収集廃棄物)について</p> <p>資料1-2 原価計算書(可燃・不燃ごみ処理手数料)</p> <p>資料1-3 原価計算書(プラスチック容器包装類処理手数料)</p> <p>資料1-4 原価計算書(可燃・不燃ごみ処理手数料) バイオマスプラスチック等製ごみ袋導入試算</p> <p>資料1-5 原価計算書(プラスチック容器包装類処理手数料) バイオマスプラスチック等製ごみ袋導入試算</p> <p>資料1-6 多摩26市の有料ごみ袋の金額</p> <p>資料2-1 「使用料・手数料等の適正化に関する基本方針」の改定について</p> <p>資料2-2 新旧対照表(目次)</p> <p>資料2-3 使用料・手数料等の適正化に関する基本方針(令和7年度改定版)(案)</p>
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>開会</u></p> <p>会長より開会の挨拶</p> <p>○事務局:</p> <p>会議の進行の説明</p> <p>○会長</p> <p>傍聴要領に基づき、傍聴人の入室を認める。</p> <p><u>議題1 一般廃棄物処理手数料(指定収集廃棄物)について(諮問)</u></p> <p>副市長から米田会長へ諮問</p>	

議題 2 一般廃棄物処理手数料（指定収集廃棄物）について（審議）

事務局より資料 1-1～資料 1-6 について説明

○会長：

事務局の説明について、何か意見、質問等はあるか。

○委員：

事務局では、適正化の検討にどの程度の時間が必要と考えているのか。

○事務局：

バイオマスプラスチック等製ごみ袋の試行的導入については、令和 8 年度予算に計上し、事業者と契約を行う予定である。一般社団法人日本有機資源協会への登録手続や、工場における現行の指定収集袋の在庫消化のため、契約から市場流通までは少なくとも 6 か月かかる。市場流通後の効果検証についても、各家庭における袋の在庫状況も影響するため、一定期間必要である。そうした状況を鑑みて、令和 9 年度に改めて諮問することを検討している。

○委員：

バイオマスプラスチック等製ごみ袋の導入により、0.03 円/10 のコストアップになるが、そのほかにどのような影響があるか。

○事務局：

実際に袋を使ったときの裂けやすさなど、市民の使い勝手を考慮する必要がある。

○委員：

改めての適正化の検討は 2 年後ということだが、乖離が生じている状態が続くことが気になる。2 年間という期間について事務局はどのように考えているか。

○事務局：

原価との乖離が生じているものの、前回の答申や附帯意見を踏まえ、手数料の適正化を慎重に行っていくためにも必要な期間だと考える。また、市民へ説明するタイミングとして、料金改定の時期とバイオマス素材の導入の時期は合わせた方が望ましいと考えている。

○委員：

2 年間という期間は確かに気になるが、料金改定の時期とバイオマス素材の導入の時期を合わせて市民に説明する方が望ましいと思うので、許容できる範囲だと思う。

○委員：

西東京市は平成 22 年以降料金の見直しを行っていないということだが、近隣自治体の中には見直しを行った自治体もあるのか。

○事務局：

清瀬市が令和 2 年 10 月に見直しを行ったと聞いている。

○委員：

料金改定に向けては、バイオマスプラスチック等製ごみ袋の導入に向けた効果検証や、プラスチック資源循環促進法への対応などの課題を解消するため時間を要することは理解できるが、効果検証の短期化の検討も必要である。また、料金改定に向けては、市の環境配慮への姿勢を示すなど、事前周知をしながら市民の理解を得ていく方法もあるのではないかと。

○委員：

手続に時間がかかるのは分かるが、環境問題への取組という視点からは、少しでも早く導入した方がよいと思う。バイオマスプラスチック等製ごみ袋の効果検証は、使い勝手以外に何を効果検証するのか。

○事務局：

CO2 の削減効果を検証する予定としている。

○委員：

効果検証をするまでもなく、あらかじめ分かるのではないかと。効果検証の必要性に疑問がある。

○事務局：

CO2 削減効果やコスト面に関しては、概算でもあらかじめ分かる部分はある。しかし使い勝手については、各自治体によって袋の厚さが異なるため、西東京市の仕様で、実際に市民の方に一定期間使っていただく必要があると考える。

○委員：

環境への配慮を目的に袋の素材を変更するのであれば、使い勝手が悪いがために導入が遅れるのはいかがなものかと思う。

○委員：

試算が出ているということは、厚さはすでに決まっているのではないかと。

○事務局：

厚さについては、現行と変えない予定で試算している。近隣自治体では最大 25%バイオマス素材を配合しているが、試行的導入時はもう少し配合率を下げ検証をしていくことを考えている。配合率による使い勝手への影響も検証していきたい。

○委員：

使い勝手や裂けやすさは予想ができそうだが、近隣自治体の袋で試したことはあるか。

○事務局：

近隣自治体の袋を試したことはない。自治体ごとに袋の厚さ、ロール式か否か、1枚1枚切り離すときのやり方などが異なるため、他の自治体での検証結果を西東京市の検証結果に反映できないと考えている。

○委員：

将来的に料金改定を実施する場合、同時に市民に対してごみの減量を啓発すべき。

○会長：
予算が確保できないと2年後の改定は厳しくなると思うが、令和8年度予算に計上するのはもう決まっているのか。

○事務局：
予算については確定しているものではない。

○会長：
東京都の補助の動きはどうか。

○事務局：
ごみの収集・運搬に係る人件費や、物価の上昇分に相当する経費を都が補助するといった報道は先日確認した。

○会長：
都内では他にどの自治体がバイオマス素材を導入しているか。導入した自治体では、使い始めてからどのような影響が出ているか。

○事務局：
武蔵村山市、三鷹市、国分寺市、国立市、日の出町などで導入されている。導入後、使い勝手の部分については大きな影響はなかったと聞いている。

○会長：
一般廃棄物処理手数料（指定収集廃棄物）については、原価計算と条例で定める料金に乖離があるため、料金を改定する必要が認められる。しかし、事務局から説明があったとおり、バイオマスプラスチック等製ゴミ袋の導入を予定していること、また、導入後の効果検証に一定の期間を要することから、料金改定の時期については、それらの整理を行った後とすることではいかがか。

（異議なし）

○会長：
料金改定の時期については引き続き検討していただく。答申については、案文を作成し、委員の皆様にご確認いただいた上で確定するというところでよろしいか。

（異議なし）

○会長：
それでは、答申については、会長預かりとさせていただきます。
そのほかに質疑はあるか。特になければ、次の議題に移る。

議題3 西東京市使用料・手数料等の適正化について（審議）

事務局より資料2-1～資料2-3について説明

○事務局：

特に資料 2-3 の 15 ページの受益者負担の割合については、記載方法などについて意見を伺いたい。

○会長：

事務局の説明について、何か意見、質問等はあるか。

○委員：

今回の見直しについては、本来あるべき姿に近づけるものであるため基本的によいと思う。15 ページの点について、原則と例外を明記するのは、市民説明の点からよいと思う。

○委員：

見える化が図れていて、網羅的にバランスが取れた仕組みづくりがされていると思う。15 ページの点については、原則と例外を示すことは必要であると思うが、記載方法についてはもう一工夫必要であると感じた。

○委員：

網羅的で体系的で、かつ今までの議論を踏まえているため、よいと思う。15 ページの点については、受益者負担率 30%の根拠の説明がほしい。

○事務局：

受益者負担率 30%の設定については、資料 2-3 の 9 ページの性質別分類表を参考にしている。本市においては、表に記載のとおり、受益者負担割合を、0%、30%、50%、70%のいずれかで設定しており、受益者負担を求めの中では最も低い 30%を採用している。また、西東京市がごみの料金を徴収するようになった当初から 30%と設定している。

○委員：

全体が整理されていてよいと思う。15 ページの点については、30%については明記されていた方がよいと思うが、原則の 100%より、例外の 30%が目立っているため、表現方法については工夫してほしい。

○会長：

ほかに意見がなければ、本件については、審議会での審議を終結したいと考えるがいかがか。

(異議なし)

○会長：

異議ないようであるため、審議会での審議を終結する。答申については、案文を作成し、委員の皆様にご確認いただいた上で確定するというところでよろしいか。

(異議なし)

○会長：

それでは、答申については、会長預かりとさせていただく。特になければ、次の議題に移りたいと思う。

議題4 その他

○会長：

その他の議題はあるか。

○事務局：

先ほどの資料2-3の基本方針について、ご意見いただいた15ページについては、記載を調整し、答申をいただいた後に案をとる形で決定したいと思う。

次回の審議会については、7月頃を予定している。

○会長：

了解した。ほかになければ、これで令和7年度第1回審議会を終了する。

(以上)